

第3回湯沢市部活動協議会記録

R 6 . 2 . 2 7 (火)

1 開 会

2 会長あいさつ

- ・本日は、大館市、能代市、羽後町の拠点地域の報告もあるので参考にしていきたい。
- ・昨年11月にスポーツ協会主催で開催された研修会では、総括コーディネーターの先生が先進事例などを紹介してくれた。
- ・あれから2ヶ月以上過ぎているので、本市として進んでいる面もある。
- ・この活動（事業）は、徐々に形が見えてきたが、期限が決まっている。本市として実行に移していきたいので、ぜひ、忌憚のない意見を伺いたい。

3 報 告

令和5年度秋田県中学校部活動地域移行推進事業成果報告会について

- (1) あいさつ 秋田県教育庁保健体育課課長
- (2) 学校部活動の地域移行に向けた実証事業の取組について

4 協 議

(1) 令和6年度部活動地域移行について

① 地域移行に係る目指す姿、具体について

◇事務局から、提案、説明

- ・湯沢市部活動地域移行推進計画【目指す姿】（案）
- ・湯沢市部活動地域移行推進計画【目指す姿・具体】（案）

【質問・意見・提案】

(委員)

- ・R8年度の地域クラブへの移行に向けて、R7年度の総体終了後から学校での休日部活動を行わず、地域クラブでの活動になることについて、他市町村ではまだ学校で行っていると思われるので、そこに何らかの差が生じるのではないかと。
- ・指導者が、「湯沢市スポーツ協会・湯沢市文化芸術協会・湯沢雄勝吹奏楽連盟」とあるが、そこに所属していない方が、指導者になれないような提案になっているので、それはどうかと思うが。現在、部活動指導員として、指導している方の中には、上記の団体に所属していない人もいる。

→ (事務局)

- ・例としてあげているので、現在の部活動指導員の方が引き続き、指導していただくことも十分に考えられる。

(委員)

- ・本市の卓球とバドミントンの団体が、地域クラブを立ち上げ、今後、中体連大会に参加することになるようだ。今後の市の方向性として、地域クラブが中体連主催大会に参加できるように中体連に組み込まれるのか、逆に、地域クラブがメインになっていくのか、そして本市としてどの段階にあり、どこを目指すのか明確になっていないような気がする。さらに、「市町村またぎ」が見られるが、中体連は認めていないという状況である。

→ (事務局)

- ・中体連に参加するための地域クラブを作っていくのか、地域に移行したクラブ活動を作っていくのか難しい問題があると捉えている。「中体連大会参加条件等」の情報を確認しながら、「地域移行への取組」を行っている。

(委員)

- ・大きく日本としては、欧州のような放課後は学校が関わらず、地域のスポーツクラブで活動するようシステムを目指していることと思う。

(委員)

- ・いずれは、中体連主催大会がなくなっていくのではないかとと思われる。

(委員)

- ・サッカーがいい例ではないか。スポーツ協会（少年団）と中体連がうまく合わさってもらえればいいのではないか。

(委員)

- ・先進地域である NPO 法人希楽々（村上市）の場合。20 年前の希楽々発足当時、市内中学校長会が「土・日の部活動禁止」を打ち出している。そこで、地域が受け皿となった活動につながった。地域活動としてすっきりしているのではないか。ここで見られるサッカーなどのような地域としての受け皿があれば地域移行が進むのではないか。

(委員)

- ・地域移行をなんとかして成し遂げなければならない。そのためには、保護者も含めて、共通認識を持たなければならない。中体連の状況はなんとなくわかるが、東京の私学の中学校の対応・状況はどうなっているのかな。月～金までは学校にいるし、土・日はクラブということで、ずれが生じないようにしなければならない。

(委員)

- ・通常、私学の中学校の場合は、土・日も練習しているのではないか。

(委員)

- ・本校の吹奏楽部は4人である。そうすると、休日の活動は学校で行う、地域クラブで行うことのどちらでもいいのか。

→ (事務局)

- ・例としてであるが、少人数の学校同士が一つになって、いわゆる湯沢プラス（仮）というような形で休日の活動を行うようなモデルを考えている。

② 湯沢市部活動地域移行推進計画、湯沢モデルについて

◇事務局から、提案、説明

- ・湯沢市部活動地域移行推進計画 湯沢モデル
陸上競技・柔道・剣道・吹奏楽について

(委員)

- ・陸上競技・剣道・柔道の検証結果を他の団体（部活動）へも情報提供してほしい。

(委員)

- ・R8年からは、練習会場としては、学校ということになるのか。

→ (事務局)

- ・競技種目によって異なるが、本市の公共施設を使うことや、学校の施設を活用することも考えられる。

(委員)

- ・R8. 4月1日を期して、地域移行するのか。

→ (事務局)

- ・そのために、少なくとも、R7の総体終了後の土・日は地域クラブとして活動できるよう体制を整えていきたい。すべての部活動の休日の活動は、地域クラブに移行することを目指す。

(委員)

- ・例えば、現在卓球部に所属しているとすれば、今、地域クラブとして活動しているその卓球クラブに加わらないとならないのか。

→ (事務局)

- ・そのような場合もあるかもしれないし、他の卓球クラブが立ち上がるかもしれないので、選択肢はいくつかあると考えられる。

(委員)

- ・小学校ではバトン、合唱、吹奏楽なども部活動として活動している。小学校の状況を考えた地域移行ができないものか。同時期に移行するのか、「全県一斉」や「県南一斉」といったことも検討して欲しい。

(委員)

- ・小学校で活動しているバトン、合唱、吹奏楽などもあるので、それが地域クラブとしてつながってくれば良いと思う。

(委員)

- ・卓球のスポーツ少年団として活動しているある団体が中体連大会参加が認められ受け皿となった。スポ少連携によって新たな可能性が生まれている。

(委員)

- ・土・日は学校部活動は行わないとなると、受け皿をいろいろ用意し、十分な情報共有を行わなければならないと思う。

(委員)

- ・週末の活動は、子どもの意識の基で、行いたい活動を行うということになる。情報提供であるが、地域クラブとして認められた卓球クラブの方々には、大会運営にも協力してもらおうことにしている。

(委員)

- ・指導者の質が問われる。単純に自分の子どもがいるから指導者を引き受けるということではないだろう。資格、講習を受講するなどの覚悟がいると思うが、時給1600円で指導者を充当することができるものだろうか。

(委員)

- ・種目によって違ってくると思うが、土・日のどちらかであるとすれば、月に4回程度。R6・7年から始まるし、R8年4月にはすべての部活動が地域移行になっていることなので指導者の確保など具体的に動いていかなければならない。指導者のための研修については、種目ごと、または全体で行って欲しいと思う。

→ (事務局)

- ・研修についてであるが、本市としては全ての種目の研修を主催するというのは難しいので、全体に関わるような「指導者の人間力の向上」という面での研修は必要ではないかと思っている。

(委員)

- ・吹奏楽もR8年には完全地域移行がスタートするのか？楽器の運搬、移動の問題もあ

るし、指導者の研修会も必要ではないか。よい指導者を確保するためにも、文化面のコーディネーターが必要であると思う。

→（事務局）

- ・文化面でのコーディネーターを配置するための予算として、R6年の補正で対応することを予定している。

（委員）

- ・今後、地域移行するに当たって、こんな形で運営したいということなど、調査してみてもどうか。

→（事務局）

- ・運営してくれる団体やスポーツ協会と話し合いを行いながら足並みをそろえて進めていきたい。

（委員）

- ・情報提供であるが、スポーツ少年団における指導者について。今までは、「アシスタント」という言葉が入っていたが、スポーツコーチングリーダーという名称になり、「アシスタント」という言葉が取れた。

（委員）

- ・指導者については、生徒や保護者にとっては信頼関係があることが最も重要。その指導者を決める決定権は誰にあるのか、どうなっているのか。

（委員）

- ・今現在であれば、学校である。信頼関係を作ることは当然である。その決定したことをどのように伝えていくのが問題。

（委員）

- ・切り替わる時期の生徒に負担がかからないようにしていただけたらと思う。そして、子どもたちや保護者に正確に情報が伝わるのが大切ではないかと思う。



→ (事務局)

- ・どの地域クラブを立ち上げるにしても単純にはいかない。湯沢市モデルも全てではない。選択肢があって実行しながら進めることによって結論が出てくるものと思われる。

(委員)

- ・東北大会、全国大会と上位の大会を目指す地域クラブもあると思うし、またそうでない地域クラブもあるかと思う。将来の人口、生徒数なども見据えて、ある程度の着地点を決めることも必要だが、どのようにでも対応できるようにしておくことも大切ではないか。湯沢市として、一本化して実施した方がよいのではないか。

(委員)

- ・様々なご意見ありがとうございました。本日の意見を是非、実際の体制づくりに生かしていただきたいと思います。予定された時間がきましたので、以上で終わらせていただきます。

5 振り返り 「今年度の部活動協議会の振り返り (各委員から)」

(1) 部活動協議会の企画・運営について (部活動協議委員 12名)

項目	評価内容・評価	S	A	B	C	D
企画力	企画立案はどうだったか	0	10	2	0	0
運営力	スムーズな運営だったか	0	10	2	0	0
実行力	部活動改革が進んでいるか	0	5	6	1	0

(2) 委員としての取組について (部活動協議委員 12名)

項目	評価内容・評価	S	A	B	C	D
責任性	委員としての成し遂げた度合	0	1	7	4	0
協調性	周囲と協力して取り組めたか	1	7	4	0	0
積極性	自主的に取り組んだか	1	5	5	1	0

(3) 今後の部活動協議会の取組として必要なこと（自由記述・抜粋）

（委員）

- ・保護者や地域に対してこれから十分な説明を行うことによって、スムーズな移行につながると思う。併せて各団体への依頼も並行して進めていただきたい。

（委員）

- ・協議会で決まったことや今後の予定など、関係ある子どもたちや保護者に早めに周知した方が良いと思う。

（委員）

- ・協議会の情報発信は市のHPで行われていますが、今後は移行計画案を具体的に対面で市民に発信し、意見を頂く必要性を感じます。

（委員）

- ・指導者の質の確保や部活動の目的の共有などを図るため、湯沢市独自の指導者研修プログラムを構築する必要がある。種目別ワークショップ（話し合い）を行い伴走支援をするなどして、協議会へ情報共有してほしい。

（委員）

- ・人・物・予算が具体的に示されない現状では「たら・れば」の協議に終始してしまい、具体が見えないままの1年になってしまった。自身も同様です。特に文化面では、活動場所、移動について難点が多くあるので、先進事例などを参考にして、コーディネーター（文化部）を中心に、具体的施策づくりに取り組めれば良いと思います。

（委員）

- ・教員の働き方改革のこともあるようだが、未来の子どもたちのために「地域移行」をどうするか、の一点でブレずに取り組むことが大切であると感じた。

（委員）

- ・中体連、吹奏楽連盟、合唱連盟も大会は他郡市（少なくとも羽後町、東成瀬村）と同じステージに立つ。組織づくり、運営面で歩調が合わないとなると、この話は進まないと思うので、協議会を広域で考えることも必要ではないだろうか。

（委員）

- ・本協議会は地域社会の状況を見据え、慎重かつ大胆な変革が求められるものであると感じている。様々な意見が子どもたちが生き生きと意欲をもって参加できる体制づくりのため、関係諸団体との連携を密に図っていくことが必要になると思う。

(委員)

- ・令和6年度中に地域移行（土・日）が進む部活動に関わる生徒や保護者の意見をしっかり聞き、理解していただける様に進めてください。



(委員)

- ・指導者の育成、信頼関係の面で、子どもたち、保護者間で不安がありますので、できればR8年よりも前から関わりをもってもらえると有難いと思います。誰が決定権をもつのか、学校に相談してもよいかなど子どもたちが不安が少なく、伸び伸びと活動できるよう考えていただけたらと思います。

(委員)

- ・小学校文化部（バトン、合唱、吹奏楽）の地域移行。各種大会参加規約の改正。土・日の地域移行から平日も含む移行への時間的制約。中体連の活動の調整。指導者の確保と講習、研修。移行期間の地域クラブ指導者の理解と協力（大会運営）など。

6 今後の予定・計画

(1) 令和5年度部活動地域移行に向けた中学生による意見交換会について

令和6年3月25日（月）午後1時30分から午後3時30分

湯沢市役所本庁舎 4階会議室41

(2) 令和6年度湯沢市部活動協議会

① 7月11日（木） ② 11月21日（木） ③ 令和7年2月28日（金）

(3) 保護者等を対象とした研修会 令和6年6月頃

7 閉会

